



地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた

大田区

面積61.86km²
 世帯数400,636世帯
 人口729,423人
 (うち外国人).....23,031人
 予算3,009億円
 職員数4,235人



はねびん

大田区公式PRキャラクター



ユニークおおた

シティプロモーションを展開
していくためのブランドメッ
セージ



大田区総合体育館

「みる」スポーツと「する」ス
ポーツを基本コンセプトにし
た大型の体育館です。



大田区立勝海舟記念館

国登録有形文化財である旧清
明文庫を保存・活用しながら
増築し、全国初の勝海舟記念
館を開館しました。

歴史・見所・名所

大田区は、昭和22(1947)年3月15日に大森区と蒲田区の合併により誕生しました。区名は両区から一文字ずつ取り命名されました。大森貝塚が示すように、大田区には古代から人々が暮らし、江戸期には海苔の養殖が盛んに行われました。また、東海道の街道筋に当たっていたため、人馬の往来で賑わいました。大正期以降は製造業などの中小工場が集積して戦後の経済成長を支え、現在も「ものづくりのまち」として知られています。昭和38(1963)年には、海苔の養殖が幕を閉じ、臨海部には羽田空港や大田市場など物流施設が整備されました。台地部は田園調布をはじめ緑の多い住宅地となっています。

関東で最古の五重塔がある池上本門寺や、尾崎士郎、室生犀星、川瀬巴水など多くの文士や芸術家に移り住んだ「馬込文士村」では、歴史を感じながら散策が楽しめます。池上梅園、桜坂、多摩川台公園のあじさい、田園調布のイチヨウ並木、羽田狛師町の風情、蒲田・大森の繁華街、商店街、黒湯温泉なども見所です。

概要

大田区は、日本の空の玄関口である羽田空港を擁する区として、国内外の都市との交流を積極的にを行い、観光や多文化共生などを充実させて、「住んでよし、訪れてよし」のおもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おおた」を目指しています。

また、勝海舟が愛した洗足池、江戸無血開城に向けた交渉が行われた池上本門寺など、時代の躍動を感じられる史跡にあふれており、令和元(2019)年には全国初の勝海舟記念館を開設しました。

高度な技術力を持つ多くの町工場、賑わいのある商店街、田園調布に代表される美しいまちなみや多摩川などの自然、歴史ある伝統文化、手軽に楽しめる多国籍グルメなど、多彩な魅力にあふれ、「東京の縮図」ともいえるまちです。

区内の二つの蒲田駅(JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅)をつなぐ新空港線について、令和4(2022)年6月6日に東京都と大田区は基本的事項について合意しました。この新空港線の整備を契機に沿線のまちづくりも進め、区全体がより一層魅力的になるよう取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症を克服し、誰もが暮らしやすいまちにするため、区民、自治会・町会、事業者やNPOなどの団体との連携・協働により「地域力」を発揮し、持続可能な区政運営を進めてまいります。

主要課題

① 健康維持・感染症対策

全世界に混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症は区民に大きな不安を与えました。区民が安全・安心な生活を送れるよう、関係機関と連携して感染症対策に取り組みます。また、外出や運動をする機会が減ることで、高齢者の健康状態悪化、子どもの体力低下などが懸

念されています。新しい日常においても、誰もが健康維持や体力向上に取り組めるよう、多様な取組みを進めます。

② 大規模自然災害対策

近年、我が国では巨大地震や超大型台風等が繰り返し発生し、数多くの人々の生命や財産が奪われています。今後も気候変動等により、ますます大規模自然災害の発生頻度が高まることが懸念されています。安全・安心な区民生活を守るため、大田区はこれらの脅威に備え、計画的な災害対策に取り組めます。

③ 生活支援策

新型コロナウイルス感染症の拡大等による経済活動への影響により、区民の生活は厳しい状況が続いています。区では支援を必要とする方をはじめ、誰もが安定、安心して暮らしができるように、区民生活を支えるための様々な取組みに注力します。

④ 経済活動支援策

ポストコロナ時代において大きな困難に立ち向かう事業者を支えるため、感染症拡大防止を図りながら、消費喚起や受注機会の創出・拡大等を通じた事業の継続支援を適切かつ迅速に行い、区内経済の新たな成長に取り組めます。また、区施策活用スペース「HANEDA × P i O」を起点とした区内企業と全国・世界の取引機会拡充や、副業人材の活用並びに事業承継支援等を通じ、「産業のまち大田」のより一層の発展に向けた取組みを推進します。

⑤ 学びの保障・子どもの生活応援

未来を担う子どもたちの成長を支えるため、いつでもどこでも質の高い教育を提供できる環境を整備するとともに、安全で安心して子どもを育てることができる生活の支援や、子どもへの虐待防止に取り組んでいくことにより、子どもの学びを保障し子どもたちの未来を切り拓きます。

⑥ 新たな自治体経営へのシフト

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会経済状況は大きく変化し、大田区の行財政運営は今後さらに厳しさを増していくことが予想されます。このような状況を踏まえ、大田区は「ヒト・モノ・カネ・組織」という4つの行政資源を最大限に活用し、これまで以上に効果的・効率的な自治体経営を実現していく必要があります。デジタル技術の活用や、公民連携など様々な手法を取り入れ、新たな自治体経営へとシフトし、厳しい社会の状況においても、多様化したニーズに柔軟に対応する自治体経営を進めます。

将来展望

大田区では令和4(2022)年3月に都市計画マスタープランを改定し、戦略的に都市づくりを進めています。羽田空港の機能強化や、新空港線整備とあわせた地区の再整備等により、さらなるまちの発展が期待されます。

また、暮らしの面からは、令和4(2022)年4月には2年連続で待機児童ゼロを実現し、安心して子どもを生み育てやすいまちづくりを進めています。

さらに、環境の面からは、令和4(2022)年2月に2050年に温室効果ガス実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言して、脱炭素社会の実現に向けた実践行動に取り組んでいます。

こうした未来に向けたさまざまな取組みを進め、全世界共通の目標であるSDGsの達成を通して、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある地域社会を構築していきます。



国際都市の玄関となる羽田空港

アジアの拠点として、日本の玄関口として、首都東京の価値を高めるとともに、おもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おおた」を目指しています。



羽田イノベーションシティ
先端産業と文化産業の融合が体験できます。



田園調布せせらぎ公園・せせらぎ館

水と緑に囲まれた豊かな自然を感じることでできる公園です。せせらぎ館は隈研吾氏が設計に携わり、公園内の憩いの場として親しまれています。



西六郷公園(タイヤ公園)

海外でも紹介された、タイヤを利用した怪獣やロボットなどのモニュメントや遊具のある公園です。



大森ふるさとの浜辺公園

砂浜や干潟を持つ都内で初めての区立海浜公園です。隣接する大森海苔のふるさと館では海苔づくりの歴史を知ることができます。